

2015年7月3日  
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦  
担当ワーキンググループ主査 作本 直行

インド国高速鉄道開発計画調査  
(開発計画調査型技術協力)  
ドラフトファイナルレポートに対する助言

**助言案検討の経緯**

ワーキンググループ会合

- ・日時：2015年6月19日(金) 14:00～17:37
- ・場所：JICA 本部(111 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：作本委員、平山委員、村山委員、米田委員
- ・議題：インド国高速鉄道開発計画調査(開発計画調査型技術協力)ドラフトファイナルレポートに対する助言案作成
- ・配布資料：1) ドラフトファイナルレポート  
2) 環境影響評価報告書  
3) 住民移転計画  
4) 先住民族計画  
5) スコーピング案ワーキンググループ助言対応表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第60回委員会)

- ・日時：2015年7月3日(金) 14:31～17:30
- ・場所：JICA 本部(会議室：1階 111・112 連結会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

## **助言**

### **全体事項**

1. 高速鉄道の利用料金設定においては、現地の生活水準等に留意する旨を FR に記述すること。
2. 被影響世帯へのセンサス調査が進められている一方で、ステークホルダー協議の参加者は少数にとどまり、きめの細かい情報提供や参加を求める声が住民の中から出ていることから、本調査による結果の限界を FR に記述すること。また、環境影響の予測評価が事業規模を考慮すると相対的に簡素であることから、より丁寧な評価を行うこと。さらに、住民移転への対応については記述内容が金銭的な補償に偏り、移転候補地や生計回復手段等が基本方針や一般的な記述にとどまっているため、可能な限り具体化に努めること。
3. 将来の列車増発等に伴い増加が予想される動力源確保に関する方策について、FR に記述すること。

### **代替案の検討**

4. 主要都市間の線形決定における環境社会配慮の有無、ある場合はその説明を FR に記述すること。
5. 代替案比較の表には、EIA 以外の RAP 等の報告書に記載されている内容を反映し FR に記述すること。
6. 自然環境に関する代替案比較では、影響が大きいと考えられる森林への影響と Thane creek への影響の視点から比較を行ったことを FR に記述すること。
7. Thane creek の通過において、トンネルと高架の長所・短所の比較及びトンネルの選定理由を FR で記述すること。

### **スコーピング・マトリックス**

8. 土の採取地や残土の処理等について記載し必要に応じて緩和策を記述すること。
9. スコーピングの比較は、本事業で選択した代替案を特定した上で、実施すること。
10. 気候変動の項目については、本事業に電力供給するための発電所における CO2 排出増を考慮しても温暖化防止 (CO2 の排出量削減) に寄与するとの説明を FR に記述すること。

### **環境配慮**

11. 測定データの信頼性の確保に留意すること。
12. 森林伐採が必要となる面積を、FR に記述すること。
13. 森林保護区の目的、区分けの説明を FR に記述すること。
14. 樹木の移植または植栽のための具体的な場所や規模に関する情報を、可能な限り FR に記述すること。
15. Sanjay Gandhi National Park(SGNP)および Tungreshwar Wildlife Sanctuary

(TWLS) 周辺の Ecological Sensitive Zone (ESZ) の有無について、FR に記述すること。

16. Virar における駅の予定地が Reserved Forest に隣接すると考えられるため、開発がもたらす森林への影響を把握し、対応策を FR に記述すること。
17. Noise and Vibration に関して、人以外の動物（鳥類を含む）等への影響の有無についても FR に記述すること。
18. Natural Environment に関して駅や車両基地による影響を FR に記述すること。
19. 工事中、供用後ともに、野生動物の障害や死亡、及び、移植または植林した樹木の状態のモニタリングを追加し FR に記述すること。
20. 騒音や振動のモニタリングについて、測定地点を抽出した根拠を FR に記述すること。
21. 騒音に関して既に基準超過の地区を通過する場合の対応策について、FR に記述すること。
22. Vadodara におけるステークホルダー協議で提起されている浸水対策への影響の有無を確認し、FR に記述すること。
23. トンネル掘削によって生じる残土の量および処理方法について検討し、FR に記述すること。

## **社会配慮**

24. 世界遺産となっている Mumbai 駅への影響の程度について、FR に記述すること。
25. Social Institutions や Indigenous or ethnic minority への影響は操業中もモニタリングを通じて確認するため、C（影響不明）として扱う必要性について検討し、その結果を FR に反映すること。
26. IPP、RAP に記載されている金銭補償以外の生計回復支援策についても FR の第 7 章に記述すること。
27. 学校、市場、職場、飲料水へのアクセスについて影響ありと答えた世帯が相対的に多い District があるため、対応策を検討し FR に記述すること。
28. 移転地については、選定方針のみで候補地に関する情報が全く記載されていないため、可能性ある候補地を FR に記述すること。具体的な記載が困難な場合には、その理由について FR に記述すること。
29. 移転が必要となる農地について、可能性のある具体的な代替地に関する情報を、農地としての質を合わせて FR に記述すること。
30. 生計回復手段に関する記載が一般的な内容にとどまっているため、より具体的な記述に努めるとともに、職業訓練に関する具体的な検討を記述すること。
31. 教育、衛生、職業訓練、生計回復促進のため支援に必要とされる経費的な裏付けを、FR に記述すること。
32. Bharuch におけるステークホルダー協議で提起されている寺への影響について確認し、対応策を FR に記述すること。Kheda におけるステークホルダー協議で提起さ

れている Bavra, Degam 村の学校へのアクセス阻害について確認し、対応策を含めて FR に記述すること。

### **ステークホルダー協議・情報公開**

33. ステークホルダー協議の参加者に占める女性の割合等を会合ごとに記述すること。
34. Valsad and Dadra and Nagar Haveli や Palghar などにおけるステークホルダー協議で意見が出されているように、District レベルだけでなく、Village レベルでの会合を開催し、被影響住民への参加の呼びかけを検討し、その結果を FR に記述すること。また、Palghar におけるステークホルダー協議で多くの参加者から提起されている事業への反対意見への対応策を、FR に記述すること。
35. 被影響世帯に対する聞き取り調査に関して、サンプリングを含めた調査方法と対象世帯が受ける影響の程度や社会的属性について、可能な限り FR に記述すること。
36. RAP では 90%の対象者から本事業による利益が無いとの回答を得ているので、住民等への事業実施の理解促進を確保する方法を、FR に記述すること。

以 上